

# 歩ごう・<sup>つな</sup>連ごう・旧山陽道

2006年5月14日(日)

## 第1回 旧山陽道を歩く会

古代から近世までの間に、県内の山陽道は時代ごとに北から南へ4～5回の変遷を重ねてきました。変遷の最後の道は江戸時代の道です。戦国大名宇喜多直家・秀家父子の功によって山陽道は岡山城下を通るようになりました。秀家の進言に基づいて、従来の官道が岡山城下を通って奉還町の方へ抜ける官道へと変更されました。

〔三石-片上-藤井-岡山-板倉-河辺-矢掛-七日市-高屋〕の約100kmの行程が江戸時代の山陽道です。現在は、旧山陽道と呼んでいます。「第1回 旧山陽道を歩く会」で歩く行程は、その内の岡山城下を出て板倉へ向かう途中の区間〔奉還町-三門-万成一矢坂-一宮〕約7.6kmです。

参勤交代の行列が続いた道。人々の往来が岡山市の商業や文化を発展させた道。この道の歴史に思いをめぐらせながら、旧山陽道を歩く会を楽しんでいたいただけだと幸いです。

主催：旧山陽道を歩く会実行委員会・駅西地域街づくり協議会

共催：奉還町商店街振興組合・協同組合西奉還町商店会・連塾・地域創生学研究会

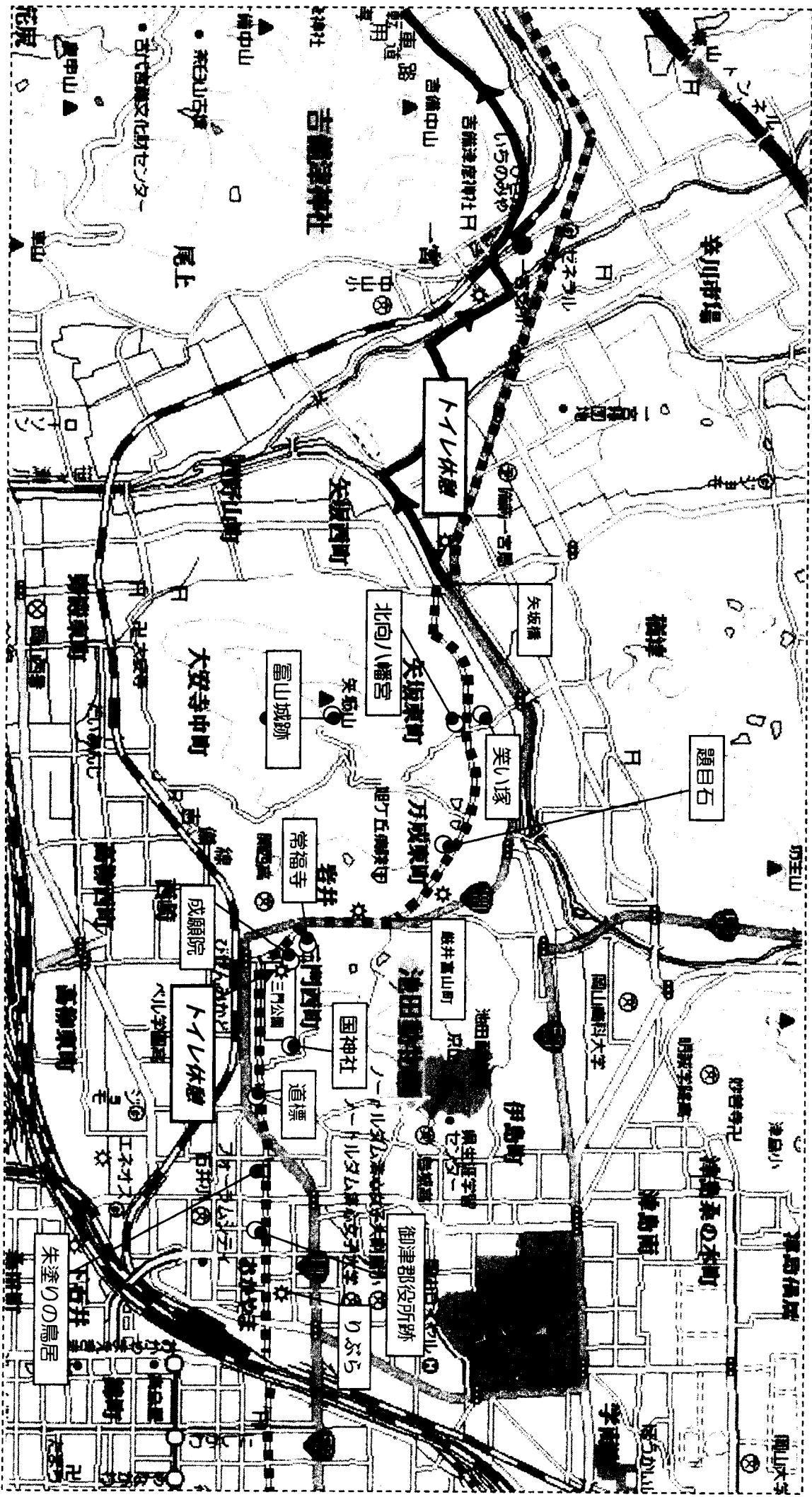
吉備津もちつき保存会・岡山城ロータリー・奉還町町内会・西奉還町町内会

後援：岡山市教育委員会・中国学園大学・中国短期大学・山陽新聞社・NHK岡山放送局・読売新聞大阪本社

# ウオークの行程

奉還町商店街 → 国神社 (ガイド) → 三門公園 (トイレ休憩) → 岩井 → 万成 → 矢坂  
 → 北向八幡宮 (ガイド) → 一宮 → 吉備津神社

(縮尺 1/21000)    ■■■■■ 旧山陽道    ☆ トイレ



# 周辺の名所・史跡ガイド

(史跡ガイド) 旧山陽道を歩く

高原忠敏

## ○奉還町通・三門から万成坂・矢坂から吉備津へ○

〔条里制〕 大化2年(646年)1月の大化の改新の詔によって公布された班田收受の法を行うため、農地を基盤の目的のように区画する条里制が整備されました。現在の奉還町通りは、この時に整備された条里の条(東西の線、里は南北の線)の中でも、特に基準となった重要な線の跡と考えられています。

〔山陽道と上伊福村・下伊福村〕 戦国時代末期、宇喜多秀家は、父直家の着手した岡山城の築城を大規模に進め、慶長2年(1597年)に完成しました。秀家は城下町建設のため、半田山の南麓を東西に通じていた山陽道を、上道郡の宍甘から西南に岡山城下町へ通し、城下から現在の奉還町通りを経て万成坂を越え、矢坂を通って笹ヶ瀬川を渡るように付け替えました。江戸時代の山陽道は、西国往来、または西国街道とも呼ばれていました。古代から続いた伊福郷は、この新しい山陽道を境に、北は上伊福村、南は下伊福村に分かれることになりました。

なお伊福郷は、『和名抄』(937年頃の成立)に見える古い地名です。

〔萬町〕 延宝4年(1678年)、西川の西に岩田町、萬町の二つの町家が設定されました。城下町への西の出入り口にあたる萬町は、萬町口または一宮口とも呼ばれ、番屋敷と惣門が設けられていました。寛政年間(1789～1801年)の岡山藩士小川弥七郎の作と伝えられる「東西自慢かがみ」には「新町(萬町)の黒いご門の鬼瓦」と歌われています。なお明治24年(1891年)には、山陽鉄道の開通にともない萬町に踏切が設けられました。昭和40年(1965年)に奉還町一丁目となり、かつての萬町の名は失われています。

〔奉還町通り〕 明治4年(1871年)の廃藩置県の後、一部の士族が家禄奉還金を元手に、萬町を西に出た西国街道沿いに商店街を形成し、はじめは新町と呼ばれていましたが、後に奉還町と通称されるようになりました。家禄奉還金とは、旧藩士に対して、これまでの禄高の3年分を秩禄

公債（年利6分）として支給したものでした。

〔巖井村から石井村へ〕 明治8年（1875年）、下伊福村は枝村の三門・西崎・国守の諸村と合併して巖井村になりました。明治22年（1889年）、岡山市の誕生と同時に、巖井村（旧下伊福村）は、島田村と上出石村・下出石村と合併して石井村になりました。この時、上伊福村も津島村・万成村と合併して伊島村になっています。

〔岡山葉煙草専売所工場〕 明治30年（1897年）、岡山葉煙草専売所工場（現J R宿舎）が設立されました。明治32年（1899年）には、石井村のうちの上出石・下出石が岡山市に編入され、旧城下町の出石町との混同を避けるために上石井・下石井と改称されています。大正4年（1925年）、岡山専売局工場は下石井（現イトーヨーカ堂）に移転しました。

〔御津郡役所〕 明治33年（1900年）、御津郡と津高郡が統合されて御津郡となり、御津郡役所が、専売所工場と奉還町通をはさんだ南側（旧奉還町交番の位置）に開設されました。ちなみに、郡議会も設置された行政単位としてのこの時の郡制は大正12年（1923年）まで続き、郡役所の廃止は大正15年（1926年）のことでした。

〔岡山市に編入〕 大正10年（1921年）石井村は、伊島・御野・鹿田の諸村とともに岡山市に編入されました。

〔奉還町の成立〕 昭和40年（1965年）、奉還町通りに沿った南北両側の地区を合わせて、奉還町1～4丁目が正式の町名として成立し今日に及んでいます。

〔京橋への道標〕 三門東町の東端近くに、明治19年（1886）の「京橋へのちかみち」と刻まれた道標が立っています。

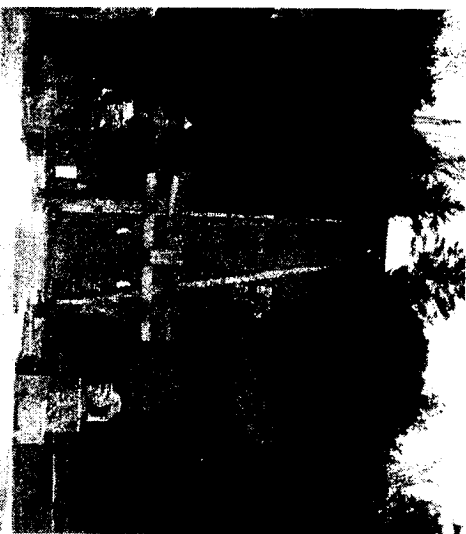


〔観音寺用水〕 観音寺用水は、南方で西川から分かれて、絵図町・伊福町、津倉町を南西に流れ、三門・大安寺地区を西流して笹が瀬川に流れ込んでいる農業用水です。上古旭川の分流の名残と思われる、古くから、自然の流路を農業用水に利用してきたものと考えられています。

〔妙林寺〕 大乗山妙林寺は、寛文9年（1666年）池田光政が鳥取から岡山に藩主として移ってきた時、光政に従って岡山にきた日意が創建した日蓮宗の寺院です。はじめは城下の山崎町にありましたが、貞享3年（1686年）、現在地に三倍増の土地をもらって移転してきました。江戸時代には当地域のほとんどの家が妙林寺の檀家でした。現在も数多くの檀家をもつ大寺として知られています。妙林寺の門前には題目石が建っています。題目とは、日蓮宗で唱える「南無妙法



蓮華経」のことを言います。



【国神社】 国神社は、大国魂神（大國主命）を祭る式内社です。式内社とは、『延喜式』（927年成立）の『神名帳』に記載されている神社のことです。現在、式内社といえ、古い歴史をもつた由緒ある神社を意味するようになっていきます。

江戸時代中ごろ、一時廃れて伊福八幡宮に合祀されていましたが、明治初年、伊福八幡宮の社地に再興されて今日に及んでいます。幕末から明治初年の当社の神官・岸本芳秀は、吉備樂を創作したことで知られています。境内には、元禄15年（1702年）の作と伝えられる石鳥居と石段や、文政3年（1820年）と嘉永7年（1854年）の銘のある石燈籠各一基があります。

【三門】 江戸時代の記録は、三門の街道沿いには多くの茶店があり、亀井という名水もあり、刻み煙草や草餅が名物で、小さい蓬団子に餡をまぶした三門団子は、児島瑜珈山の団子とともに両大関と称されていたことを伝え、次の狂歌も残されています。

「菊の紋（門）、つけた三門の草餅は、行き来の人を食らい（位）つかしむ」  
国神社付近には、今も当時の面影を偲ばせる格子のはまった家があります。

【成願院】 不動明王等を本尊とする真言宗三寶院系の寺院です。もと大阪にありましたが、石田光成の乱に焼失し、承応元年（1652年）岡山城下藤野町に再建されたと伝えられています。明治21年（1888年）磨屋町の成就院を合併し、大正7年（1918年）に現在地に移転してきました。

【常福寺】 妙見山常福寺は、大日如来を本尊とする真言宗の寺院です。寺伝によれば、養老2年（718年）熊野正隆の草創になり、はじめ大覚院と称しました。正隆は紀州の熊野権現を児島の林に勧請した時に随行した熊野正則の弟と伝えられています。戦国時代の富山城攻防戦の際に兵火にかかって焼失し、宇喜多氏の保護を受けて再建され長福寺を称しましたが、小早川秀秋に寺領を召し上げられて寺運が傾くようになりました。常福寺と改めたのは正徳6年（1716年）のことです。大正末年までは荒廃を重ねましたが次第に改修を加え、昭和24年に牛窓町の古刹・宝

光寺の本堂を譲り受けて移築し、面目を一新しました。

〔青陵古墳と青陵神社〕 谷万成の青陵古墳は、国道180号線や遊園地をつくるため削り取られています。全長約45メートルの5世紀の前方後円墳だったと推定されています。吉備津彦命が、鬼城の温羅を討ったとき、その首をここに葬ったという伝承があります。古墳の鬼神を祀ったと思われる青陵神社の社殿の傍らには、この古墳から出土した石棺が注連縄を張って置かれています。

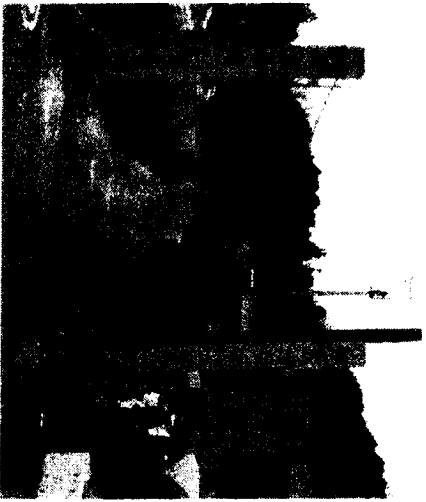
〔万成坂と題目石〕 万成坂の山陽道沿いには、城下からの一里塚や、「井戸の茶屋」と呼ばれた茶店がありました。なお万成の地名は、航海者のために海岸地帯に掘った井戸の「真名井」に由来するともいわれています。万成坂には題目石を含む大小10基あまりの石碑が立っていましたが、大型の題目石の中には、正保2年（1645年）の年号が刻まれているものがあります。

〔富山城址〕 万成山の西に連なる矢坂山山上には、富山城址があります。はじめ矢坂山山麓の豪族、富山氏によって築かれ、戦国時代には松田氏の城となりました。松田氏は、鎌倉時代に相模国から伊福郷の地頭として来住し、南北朝時代には備前国の守護に任ぜられこともある西備前の雄です。戦国時代には金川城を本拠とし、富山城には一族を配して西備前を支配しました。

明徳6年（1497年）には、東備前の浦上氏との間に富山城攻防戦が戦われています。松田氏は宇喜多直家に滅ぼされ、その後、直家の異母弟・宇喜多忠家が富山城主となり、忠家隠居の後には、その子・詮家が跡を継ぎました。詮家は後に坂崎出羽守を称し、千姫の物語で知られる人物です。富山城は、岡山城が築城されるまでは岡山平野で最大の城でした。矢坂山山上には、今も石垣の跡が一部残っています。なお岡山城の石山門は、一國一城の制によって破却された富山城の大手門を移設したものと伝えられ、国宝に指定されていますが、昭和20年（1945年）の戦災で焼失しています。

〔北向八幡宮〕 北向八幡宮は、富山城の鎮守として、富山氏によって万成山山上に創建された神社で、明治27年（1894年）山麓の現在位置に移転しました。

〔万成石〕 万成・矢坂山一帯から産出する花崗岩は万成石と呼ばれ、大正初年に明治神宮の造営に使用されてから、全国的にその名を知られるようになっていきます。



## 〔吉備津彦神社〕

吉備の中山の東北麓に鎮座する吉備津彦神社は吉備津彦命を祀り、『延喜式』の『神名帳』には載っていませんが、平安時代中期から備前国の一宮として尊崇を集めてきました。

社前の庭園は、平安末期の様式をよく伝えていきます。

戦国時代に松田氏によって焼かれましたが、岡山藩主池田氏によって再興されました。三間社流造の本殿(県指定重要文化財)は元禄9年(1696年)池田綱政によって再建されたものです。拜殿等は昭和11年(1936年)の再建で、昭和の神社建築としては最も優れたものの一つとされています。

## 〔藤原成親の墓〕

吉備津彦神社から吉備津神社に向かう途中の吉備の中山の中腹に、藤原成親のものと伝えられる墓所があります。後白河法皇の近臣だった成親は、鹿ガ谷において僧西光・俊寛らと平家打倒を企てましたが事前に露見し、備前・備中の国境・有木の別所に流されて殺害されました。

## 〔吉備津神社〕

吉備の中山の北麓に鎮座する吉備津神社は、『延喜式』『神名帳』に載せる明神大社で、吉備津彦命を祀る備中国の一宮です。三国(備前・備中・備後)の一宮とも称されました。

観応2年(1351年)火災にあって焼失しましたが、明德元年(1390年)名社の廃滅を惜しまれた後光厳天皇の勅によって再建が始まり、30数年の歳月をかけて応永32年(1425年)に完成しました。

比翼入母屋造と称される壮麗優美な本殿と拜殿は、京都の八坂神社本殿と並ぶ巨大な社殿建築で国宝に指定されています。南随神門・北随神門・御釜殿は国の重要文化財に、本殿と御釜殿等とを結ぶ総延長398メートルの回廊は県の重要文化財に指定されています。正面参道下には、温羅伝説で知られる矢置石があります。

(電車でのお帰りは、下記を参考にしてください)

JR吉備津駅 岡山方面 14:56 15:25 15:55 岡山駅200円・総社方面 15:16 15:46

(連絡先) 衣笠宏 TEL086-253-8886 FAX086-252-8235

F 700-0026 岡山市奉還町2-16-16